

現在、リンゴは開花直前となっており、最も低温に弱い生育ステージとなっています。この時期は凍霜害の影響を受けやすいため、被害を防ぐためにも事前対策の徹底を図りましょう。

凍霜害対策のポイント

① 霜溜まりの解消による防止

傾斜地の場合、園地の下側に障害物となるもの（機械や資材等）があると冷気が滞留し、霜溜まりが発生しやすくなります。移動ができるものは、あらかじめ別の場所へ移しておきましょう。また、園地周囲の防風ネットが冷気の流れをせき止めるような場合は、巻き上げておくか、はずしておきましょう。

② 燃焼法による防止

降霜は、数日間連続することが多いため、燃焼法で対応できる園地では、あらかじめ燃料（市販の防霜資材、灯油等）を十分準備しておきましょう。

火点数は概ね30～50カ所／10a以上を目安に確保し、風上側に多く配置することが効果的です。また、着火は気温が0℃になる直前に行いましょう。

※なお、4月24日（金）現在、管内に「林野火災注意報」が発令されています。火気の使用については消防署へご相談ください。

③ 防霜資材散布による防止

「霜ガード」はゼオライトに肥料を添加した多孔質乾燥資材です。気温が比較的高い時間帯に散布することで、ゼオライトが日中の温かい空気を保持し、凍霜害を軽減します。

また、「アイスバリア」は天然糖類トレハロースを主成分とした液剤です。トレハロースの働きにより耐寒性を高め、凍霜害対策に有効です。

このほか、散水氷結法や防霜ファンによる対策もあります。